

TPP 問題の歩き方 TPP ウォッチャー志願者のためのフォーラム 第2弾

【プログラム】

- 18:30 始まりの挨拶
- 18:35 第1部 TPP交渉の今と目のつけどころ
- 19:15 第2部 TPP問題を一緒に歩こう
- 20:10 愛知・岐阜実行員会の新たな取り組み
- 20:15 質疑応答
- 20:25 終わりの挨拶
- 20:30 終了

【話題提供者】

- 西井和裕（名古屋 NGO センター理事長）
- 神田浩史（西濃環境 NPO ネットワーク）
- 尾形慶子（緑の党・東海共同代表）
- 小森忠良（緑の党・東海運営委員）
- 小島鐵也（ストップ TPP デモ主催者）
- 榎本淳（泉京・垂井事務局長）
- 城内志津（そらとも代表）
- 伊藤幸慶（市民と政府の TPP 意見交換会愛知・岐阜実行委員）
- 服部悦子（エムトゥエム代表）
- 木村瞳（市民と政府の TPP 意見交換会愛知・岐阜実行委員）
- 北奥順子（現役 OL）

記録

18:30～ 始まりの挨拶

滝：本日は平日の夜、お忙しい中来ていただきどうもありがとうございます。本日の進行をさせていただきます名古屋 NGO センター開発教育委員会委員長の滝と申します、よろしくお願ひします。今日は TPP 問題の歩き方と題して進めていきますが、一部チラシを見た方が、いろんなことがチラシに書いてあって何をやるかわかんないという声も聴こえましたけども、それくらいですね、年内に TPP も締結されるんじゃないかという中で、ちょっとこれでいいのかなという気持ちがある我々市民にとっては、とても不安だという気持ちがチラシに詰まってしまったという感じではありますが、今日の趣旨としてはですね、まずは TPP の現状がどういう風になっているのかと、そしてそもそも TPP とは？そして我々市民と政府の意見交換会愛知・岐阜実行委員会ということで、主催させてもらっていますけど、この実行委員会ではですね、既に小さな勉強会は重ねてきてですね、5月11日には全国の方々をお招きしてフォーラムを開催しています。昨年12月には内閣府の担当官を招いて市民と政府の意見交換会を開催しました。そんな中、色々活動して来ましたがいよ

いよ締結してしまうのではないかと TPP で、我々に一体何ができるのか、各地で地域の特性を活かした、また個性的な取り組みをしている方がいるので、順序が逆になりましたが、第 2 部では各地からの報告となります。また報告者からのミニパネルディスカッションで、20:30 終了とさせていただきます。また今日はネットでの映像配信を行います。中日新聞の方もいらしており、写真撮影を行います。前面の席のみとなりますので、もし写真うつるのを気にされる方がいらっしゃいましたら、空いているうちに後ろに控えて頂ければと思います。ということで、第一部 TPP 交渉はどうなっているのかについて、知っている人がお話しすればよくわかると思いますが、会場の人にも一緒に現状を共有したいと思ってますので、Q&A 方式で現状を把握していこうと思います。そしてその質問者として、わが愛知・岐阜実行委員会の一員ではありますが、現役 OL という立場から、TPP は一体どうなっているのか、回答者に切り込んでいただくと、言う形で進めていこうと思います。それでは回答者の方、どうぞ前の方に。名古屋 NGO センターの理事長でいらっしゃる西井和裕さん、と西濃環境 NPO ネットワーク副会長の神田浩史さんです。では早速、椅子の方が 3 つ並んでいるので、ここから先はですね、現役 OL 北奥順子さん、通称じゅんじゅんさんにマイクをお渡ししますので、じゅんじゅんさんの好きなように進行して頂ければと思います。それではじゅんじゅんさんよろしくお願ひします。

18:35～ 第 1 部 TPP 交渉の今の目のつけどころ

北奥：こんばんは、北奥順子と申します。派遣社員をしまして、通信系企業に派遣をされて、事務の仕事をしています。見ての通りのただの普通の OL です。TPP についていまちよくわかっていない部分もありますが、今日は素朴な私の疑問に答えて頂けるという事でしたので、質問をいくつか用意してきましたのでどうぞよろしくお願い致します。まず TPP の性格という基本的な話になってしまうのですが、交渉の中にペルー、ベトナム、マレーシアなども見かけて、そういう国にとってはお金持ちになるチャンスとなるのかなと思ったのですが、逆に加盟国の中でどこかの国が儲けて、もう片方の国がお金を失うということになったりしないのかなという懸念もして、関税が撤廃されたら TPP に参加する国の経済というのは、横並びになるのか、どういう方向になるのかということ、教えて下さい。

神田：皆さんこんばんは。先ほどご紹介に預かりました神田と申します。今日はじゅんじゅんさんに切り刻まれる役ということで、戦々恐々としながら、答えられることを答えられる範囲答えていけたらと思っています。今現在 TPP12 カ国、今いくつか名前を言って下さいました、資料でいうと 2 枚めくって頂くと、どういう国が入っているのかという事で、地図があります。日本の参加が今年の 7 月から正式に認められるようになって 12 カ国になりました。こういった国々が一緒に手をつないで仲良く経済力を挙げていこうというのが TPP ですか、ということがご質問ですけども、そうあればいいのかもしれませんが、TPP というのはあくまでも 12 カ国ある意味の言葉では切磋琢磨して、別の言い方をすると苛烈過酷な競争をして経済規模を大きくして行こうとしてく者ですので、どう考えても同じように足並みを揃えて上がっていきましようというようなことには、なり得ないだろうと、多分な歴史をみても、わかるのではないだろうかと思います。ですから当然国によっての差は出てくるだろうし、それからもう一つ大事なことっていうのは国な中でもものすごい差が出てくる。ですから同じ一つの国であっても、TPP によってもものすごく儲かる、経済的な利益を受ける国も出てくる。ですからそういう人たちも TPP を推進しようと声高に言われますし、一方でそうでない人たちにとったらあまり情報が出てこないのでは

議論をしていくと常に出てくるんですが、グレーゾーンが出てきてしまへつちやぶネットが出来てしまうと、下の方にそれが引き下げられていって海外から安い労働力、安い賃金でもいいよと言う人たちが入ってくると、当然日本にいる私たち、私もまあ非正規雇用の立場ですから、そういうような労働環境の程度なんていうのは、非常に下の方に行く可能性が高いなんて言う事もある。これが二つ目です。もう一つだけ、労働に関して言っておきますと、実は TPP の問題で大事なことっていうのは、TPP を先取りしようという動きが国内でいっぱい出てきたということです。とりわけ、アベノミクス。著名な経済学者の方でこのことをドアホノミクスと呼ばれている方がおりますが、アベノミクスというのは今日本国内で至って好意的に捉えられているという側面が強いようですけども、これの第三の矢の柱として TPP が挙げられています、TPP に引きずられる形で、国内で規制緩和の名のもとに色んなことが議論されだした。解雇特区なんていうこと。これは経済特区なんていうものを日本全国に設けていって、規制緩和の先進地をつくる。規制緩和の先進地なんて言うのは逆に言えば働く側からすれば非常に働きづらいことです。解雇特区というのは、本国会での議論というものは、一応法制化するということはストップが入りました。けども、こういう案が出ているということが、将来的にどういう風に目出ししてくるのか、なんていう風に考えてみると、しかもこの様々な特区というのは三大都市圏を中心に先行してやるという風に表明されています。ここ三大都市圏のうちの一つなんですよ。幸か不幸か。ですから、そういう風な形で先取りして規制緩和、ルールを下の方に下げるといようなことが起きてくると、またどう影響するのかっていうのは、寒々しい思いです。

北奥：ありがとうございました。次の質問です。ニュースで政府は年内の妥結を目指しているという事を聞いたのですが、そこでは、具体的な交渉内容であるとか、参加するしない以上のことは決まるのでしょうか？教えてください

神田：年内妥結ってというのは、アメリカの事情なんですよ。オバマさんがアメリカ国内の世論を引き付けるというか、オバマさんの経済施策の成果が出ているというのを象徴的に TPP に捉えようとしていて、年内一つの成果、それは次のアメリカの中間選挙の前に、経済政策の成果が出ていることをアピールしたいからという側面が非常に強いんですね。それで、年内の妥結っていうことを考えた時に、とてもじゃないけど妥結できないよという声もいくつもあるようです。例えば関税をゼロに引き下げるといようなこと。これ、一昨日読売新聞が大きく取り上げたことですけども、アメリカは自動車関税は無効 20 年間下げないよという事。こんなことをスクープで読売新聞が書かれたんですけども、4 月に分かっていたことなんですよ。4 月でそれが日米の間で合意に達したという事はアメリカ側が発表したんですけども、日本側はひた隠しとか発表しなかったんです。そのことを半年以上たってから、あたかもスクープですみたくにやりだした。というのは TPP は関税をゼロにするんだということが大前提のことを、皆信じ込まされてきた。そうすると日本のメリットは何なんだという、アメリカなんかは自動車関税をゼロにしてくれたら日本の車ももっとアメリカで売れるじゃないの。ですから愛知県大奥の人たちは喜んでいるのではないだろうか。愛知県議会は TPP に対して慎重ですけども、反対とかの意思表示はされていない、なんていう風な格好になっているわけですけども、しかし肝心要、売り先として想定しているアメリカは、下げないよ。これは TPP の交渉のやり方がものすごく複雑なんです。ですから、2 国間で話をしてから全体化しようとしているので、2 国間で話をしたことが TPP の中で残される可能性が高い。TPP 向こう 10 年関税ゼロにするのが原則ですよといながらそんなゴリ押しが通りかねないというような形。これを日本がのむかのまないかっていうのは、日本の判断ですよ。ですから、アメリカは年内妥結をするよといながら日本に対しては尚そのように強行しているわけで、これは日米間だけじゃなくて 12 ヶ国

の中で百何十通り、交渉があるわけですよ、国同士の。ものすごく複雑な交渉をやらねばならない、という風なこともあります。それ以外に対立線というのは色々あって例えば知的財産権という問題。知的財産権というのはこれは TPP の中で唯一アメリカが規制強化を謳っているんです。それに対してマレーシア、ブルネイ、なんかを中心に、そんな規制をすることはできないよと言って反対している。特許を強化すると特許を多く持っている先進国には有利です。これからその特許を使おうとする途上国にとったら不利になります。ですからここは日米対ベトナム・ブルネイなどの対立になっています。それから投資の自由化という難しい交渉なんかは、これはなぜか日本はアメリカと一緒に旗振り出しました。関税以外では日本はアメリカ側についているっていうのが、今ものすごく目立ってきているこれはそういう風な報道があったり日本の政府の交渉担当官が記者会見で述べているっていう所から推測するしかないんですけども、投資なんかは非常にやばい情報だと言われながら日本政府は今アメリカ側に立って投資情報を入れようとしているのに対して、これもマレーシア・ベトナムは大反対です。オーストラリアも大反対しています。なぜオーストラリアが反対するかっていうと、オーストラリアは過去に苦い経験がある。オーストラリア実は禁煙運動が盛んで、タバコ製造の規制を強化したところ、アメリカのタバコ産業が、オーストラリア政府を投資の妨げになるとして提訴しようとした。ただアメリカとオーストラリアは現状では投資協定結んでいないんです。どうしたかっていうとアメリカのタバコ会社は香港の子会社に行って、香港とオーストラリアで投資協定を結んだようです。それで香港の子会社が、投資の利益を逸失したからと言ってオーストラリアを提訴しようとした。国内の健康を保持しようと、医療費を抑えようとしてたばこ規制を強化しようとしたら、そんなことが起きている。タバコ産業が利益を額面通り得られないからそんなことをやられると困ると言って訴訟を起こされる。日本でも起こる可能性があるんですけども、日本政府がそれで旗降っているのは、日本企業がマレーシアやベトナムに行きやすいようにするために、これの一点張りです。アメリカの企業が日本に来て提訴するっていうようなことは過去にそういう事例がないからという理由で起きえないって言うんですけど、そんなことが果たして言われるのかどうか。というのは現在日米の間ではその協定はありませんから、いざできたらどうなるのかということはわかったもんじゃない。ですから今挙げたものは一例だけです。他にもいっぱいあります。国営企業・政府系企業が扱いをどうするかなんていうようなこと、この辺を、あと 2 か月弱ですよ。妥結するとなると、恐らくアメリカが相当譲歩しなければ無理だろう、というのが今現在私なんか言えるような観測です。ですから譲歩をアメリカがすると今度はオバマさんは何を交渉してきたんだ、なんていう風な話になって、中間選挙不利になるからアメリカはそこはゆずれない。けどもある程度の妥結というものを見せないと、それも中間選挙に影響する。ですから年内妥結というものは極めてアメリカの事情であって、アメリカ政府の尻尾について旗振り出したのが日本政府であるという現状だなと私なんかは見ています。

北奥：ありがとうございました。

神田：少し、西井さんの方からも情報の秘密性について、一言、自己紹介を兼ねて喋って頂きましょう。

西井：神田さんの方が詳しいので、ほとんど神田さんにお任せしていたんですけども、名古屋 NGO センターの西井と言います。私は市民と政府の意見交換会全国実行委員会というのが、去年の 2 月に発足して、政府に対してですね、その頃はまだ TPP 交渉に参加していなかったもので、事前協議の段階でしたが、どのような協議をしているのかその内容について説明をして欲しいというようなことをですね、政府に申し入れを行ってきました。そ

それがきっかけで実行委員会というものが立ち上がったんですけども、お元の資料の裏にもですね、3 ページ目に実行委員会の経過というのが、簡単ですけどもまとめてあります。この協議に関する情報というものが、全く出てこない。内閣官房の HP なんかにには説明は少しでるんですけども、一体何のことかさっぱり分からない概要だけ書いてあるとのが続いていましたので、市民の方から、市民に対する情報公開と説明会を求めてきたんです。その一つの成果と言えれば成果なんですけども、市民と政府の TPP に関する意見交換会という会合をですね、東京と大阪でもちました。東京は 5 月、大阪は 6 月と、割と立て続けに開かれたんですけども、その後政府の動きが鈍くなりまして、再度意見交換会を開く旨の申し入れを行って、ようやく 12 月 7 日ですね、会場がここなんですけども、ここ一宮市で第 3 回目の意見交換会を開きました。その時はですね、食と農をテーマに掲げて説明会を行いましたので、協議の担当の内閣官房の職員 2 人と農林水産省の協議担当の職員が来て説明を聞いて、それから市民側の有識者 3 人ですね、神田さんも有識者の 1 人として、それから池住さん、市来さんという方が有識者として質問にあたるというような形でたんです。そういう形で説明会を開きましたけども、ご存じのように丁度その時前の日だったかな、衆議院選挙ですよ。衆議院選挙があってそこで大きく流れが変わりましたけども、12 月 7 日の一宮での意見交換会の後にまた再度続けて福岡でも、京都でもというような声があがって行って、その声を内閣府、内閣官房の方に伝えていったんですけども、担当者がガラッと変わるようなことがあって、もう以前のような形で市民との対話のチャンネルが出来なくなった。さらに新しく任命された担当官の間にコンタクトをつけて、一からやり直さないといけないというような状況になってきました。ですので、政府が市民に対して説明会を行うというのはそれ以降一度も行われていないということですね。そしてその秘密性という事で神田さんからお話があったのですが、情報が出てこないというのは今年の 7 月にですね、日本は正式に TPP 交渉参加という事になりました。それまでの政府の説明は、まだ協議の段階なので交渉の詳細についての情報はまだ入手していないんだ、だから中身について説明ができないという説明でした。7 月にマレーシアでの交渉に、ほんの一部、最後の方の 1 日か 2 日でしたよね、参加したんですよ。それで正式に全日程参加したのは次の翌月でしたかね。ブルネイの交渉から参加をして、ようやくそこで初めて日本は TPP 情報の本文を目にする、データを手に入れたということになりました。それを受けて私たち実行委員会の方もですね、どういう交渉内容なのかという事を明らかにするように迫っていったんですけども、ついに政府が言い出したのは、TPP 交渉に参加するに当たっては、秘密保持契約というものを結ばなくては行けなかったということです。交渉内容、それから条文に関しても、一切外に漏らしてはいけないというのが 11 カ国と協定を取り交わして、その協定がないと交渉に参加できない。だからこれからの情報は出せないという、そういう説明しかなかったというわけです。それでそういう状況が今でも続いているという。それでそのために、北奥さんから仕事がなくなるんではという懸念、心配事が出ていましたけども、それをどう判断するかに必要な情報が私たちには伝わってこないというような状況ですね。それ以外にもですね、健康・保険の問題ですとか、医療・医薬品の知的財産権の問題とか、私たちが私たちの身近な問題について考えるための情報が政府から出てこないというわけです。

北奥：ありがとうございます。次に、色々活動しているという事をお聞きしているんですけども、政府の反応を見て思うんですが、年内妥結を目指しているという事を踏まえて、それまでに私たちができる活動をして、いまさらって思う部分もあるんですけども、もう結果は決まってしまうんじゃないかなとも思うんですが、今からアクションをしてどれくらいの影響力があるのかというのを聞いてもよろしいでしょうか。

神田：今西井さんから説明があったような形で、とにかく交渉の様子を公開する・伝えるっていう風なこと。例えば国会議員に対しても情報は出ていないんです。別に出そうというやり方はあるんです。出す相手に対して守秘義務を課して出せばいいんです。或いは国会には秘密会議という情報を当面出さずに後日、何十年後かに出すというようなルールもあるので、そういうのを使ってそこで議論するという事をやってもいいはずなんですけども。実際アメリカなんかはそういうようなことを、秘密会議はまだやってませんが、一部議員に対しては守秘義務を課して情報をだすなんていうことをやっていたり、或いは反対の声が今非常に高まっているのはマレーシアなんです。そしてマレーシア政府なんかは、例えば世界中の民主主義のランキングなんかではそんなに上位にいかない国なんですけども、マレーシア政府はこの件に関しては出来得る限りの説明会というものをやっている。公開の説明会なんかをやったりしているわけです。ですから私たちなんかもそういう形で情報を得る、或いは私たちが意見を言う場ですよね、日本なんかでもパブリックコメントというような制度があるわけですから、そういうふうなことをきちんとやって、多くの人の意見を聞くようにというようなことは展開していくということは十二分にやり得ることだしやらなきゃいけないことだっていう風なことで、チラシの中に入れてさして頂いております、なんとか11月中にこういうような声をどんどんあげていきましょうよということ、そして国会議員の人たちがこれを行わなければいけないので、自分たちの地域の国会議員の人たちにそういう風なことも働きかけましょうよということで、できること一杯あるんです。そして国会議員の人たちに働きかけることが大事だという理由は、仮に年内妥結ということがあったとして、これは内閣府の方と確認した情報です、国際条約です TPP は、ですから議会の批准という手続きが必要です。国会で批准、国会の承認がなかったら日本は正式発効、効力は持たないんです。ですから今の状態で言うと、国会に引きずり出てきますから国会荒れます。そのことを自覚してくれる議員さんが増えてくれないといけないわけです。荒れますということを期待するわけではないんですが、そういうようなことの準備を私たちなんかもしていく必要がある。妥結をしないということでも妥結以前に情報が出てくるのがまず望ましい形です。ただ西井さんからあったように、日本の首席交渉担当官が、情報出しませんという誓約書にサインしてしまいました。からその縛りがあって出せないという部分もあろうかとは思いますが、内閣府との間の確認では、議会で議論する際には当然 TPP の条文全部日本語訳にして、公開しますという話にはなっています。そうなってくると、この批准のための議論がどれくらい国会で行われるかという事が私たちにとってはすごく大きなポイントになってくる。公開されて一週間で国会で決議ですよなんていうことになったら、私たち意見の言いようもない、わけですね。TPP の条文というのは今 1000 ページ超えていると言われていています。そんな風に訳されて法律用語がちりばめられているものをぱっと見てぱっと意見を言えなんて無理な話。ですから、そこは国会で特別委員会なりがあって、きちんと議論されて、国会が主導する形で全国各地で公聴会というものが開かれていって、さらには行政府、内閣府の方はそれに付随するような形でパブリックコメントを実施する。当然のことです。けどもそういうことも、今の政府の状況、政権交代があってから随分と変わったと言われました。ですから私たち声を挙げなきゃそんなこと起きようもないというような状況で、政府が自ら進んでそれをやろうというような状況にはなっていない。ですから今度は技議会の方にそれは働きかけて、別に自民党の国会議員の方たちの中でも TPP に関しては慎重だという議員さん一杯います。TPP に慎重だという議員さんのリスト二百数十名も国会議員自民党の議員さんだけである。愛知県の議員さんは非常に少ないんですが、岐阜県の議員さんは1区、2区以外はみんなほとんど入っています。私は2区の代従者ですけども、1区という岐阜市周

辺と2区という大垣市周辺以外の議員さん全部 TPP に慎重だということ、名前を連ねています。全国的に見たらすごく多くの議員さんの名前がそこに連ねていますから、そういう方たちに、これから頑張ってくださいと、働きかけをしていくっていうようなこと。それが私たちにとって取り得る選択肢だという風なことで、今から動き出して下さいというように意味で、一枚のチラシを入れさせて頂きました。ですからここにいる人たちは署名して頂くことにもまずお願いしたいし、署名するだけじゃなくって地元の国会議員さんに働きかけて頂く、さらには署名してもらって仲間を周りに増やして貰って。是非ここに居らっしゃる方々が、1人100人ずつ声掛けしていったら、無理ですかね。そういう風になっていくとどンドンどンドン声が大きくなっていくことに繋がっていくだろうということで期待しています。

西井:お手元にチラシがあります。「TPP 今すぐやろう私たちにできること」というもの。本当に個人の力だけでは不安や自身のなさもあると思います。しかし誰かが声を挙げないと、政府も動かないだろうし。それでオンライン署名というのも単に賛成・反対というふうなものではなくて、情報を公開して下さいという市民に対する説明それからパブリックコメントをやってくださいという、そういう要求ですね。これはやはり声を挙げていかないことには実現しない。それで特にやはり私たちは条約の条文そのものを知る機会がありませんので、このオンライン署名の中では条約の条文を全文公開するよというふうなことも求めています。さらに専門家の知恵も拝借しなければいけないんでしょうけれども、やはり市民の目でそれをちゃんと読み解く一条でもいいですから一つの項目でもいいから読み解いて行ってちゃんと意見を言っていく、パブリックコメント或いは説明会を開かせて、そこで市民として疑問の声があれば疑問の声を出すと、意見があれば意見を出すというふうなことをやっていかないと、本当に年内妥結という流れの中で作られて行って、大事な私たちの生活に関わることが決められていってしまうのではないかと懸念はもっています。なので是非皆さんにもご協力頂けたらなと思います。

北奥:もう決まっちゃっているのかな、なんて言って申し訳ありません。なんかできることがあれば、小さなことでもやれることがあればなって思ったんですけども、もしそういった活動に私が参加したとして、TPP への参加の是非が決まって、具体的な交渉内容なども決まった後っていうのは、そういう活動は必要ななくなるのでしょうか。いつまでそのような活動を続けて行ったらいいのかっていうのを教えて頂けたらと思います。

西井:妥結をして、条約ができて、国会も承認をして批准されて、TPP の渦の中に入ってしまったというその後のことですか? えー、その時はたぶんまた場面が変わってくるのではないかなと思います。それは一つ一つの項目ごとに、労働なら労働分野、農業なら農業分野などですね、それぞれに関して市民としてどのように関わるかということをよく考えて、問題点が起きそうであれば先に問題点を指摘してとか、被害を受けている人たちがあればそういう人たちの被害の回復だとか、利益をものすごく受けている企業・分野があればその分野から、その不利益を被っている分野での利益の配分・再配分を求めるなど、そのような活動になっていくのかなと思っていますけども、そこまで具体的なことは、たぶんそうかなと思いますけども、神田さんはどうでしょうか。

神田:TPP の前提条件というのは、無限大に経済が成長し得るっていう前提なんですよ。ところがこれはもうありえないことなんですけどもね。多くのことがもう行き詰ってしまっているっていう風な中ですから、TPP が例え締結された所で、それがうまく回るっていうのは私は考えられないという風に思っています。前提条件自体に無理がある。それは国際的に見ても大きな格差の問題っていうのは解消しきれないだけじゃなくてどンドン悪化しているっていうようなこともありますし、環境問題なんかもすごい象徴的なものですか

ら、これ以上経済のパイを、特にアメリカとか日本といった経済規模の大きい国の経済成長なんて重くしていくと、地球が破たんしてしまう、資源が枯渇してしまう、そんなことに繋がっていくんだろとと考えています。ですから今日の資料の後ろから 4 枚目のところに私なんかは TPP に左右されない地域づくりなんていう風なことを謳って、穏豊（おんぼう）という言葉、勝手に私が作った造語ではありますが、搾取構造がないような、関係性を作る形で、穏やかに豊かに暮らしましょうよなんて言う風なことで、これは多分 2 部で、各地でいろんなことをやってみえる方の事例のお話なんかがある、或いはこういう風に目指しましょうよというようなお話があるので、そこを期待している。ですから、こういうことで新たな気づき、逆に言うと反面的に言うと TPP 自体新たなことを私たちに教えてくれる、そういう無謀な進み方っていうのをこれから色々と教えてくれているんだよと。学びはそれなんだなという事を考えていくと、それを反面教師にする。自分自身の生活をどう変えて行ったらいいんだろか、なんていうようなことを考えていく。だから TPP 早く内容教えてくれ、もっと学びたいよ、っていうようなことですかね。

北奥：どうも今日はありがとうございました。勉強になりました。

19:15～ 第 2 部 TPP 問題を一緒に歩こう

滝：お三方どうもありがとうございました。TPP わからないことが多く、そのわからないことから憶測が広まってしまうことが、第 1 部なのかなって、そんな風に思います。しかし最悪のことも考えないといけないので、今後どうなっていくんだろっていう話と、今後同じような法案が出てくるのかなっていう不安、そういったことを踏まえてですね、もともと地域や、自分たちの力で社会を変えていこうと、今経済が成長し続けるという前提の TPP だっていっているんだけど、まあそれは無理だろうと言っている人は多くいて、そういった人たちが各地で、この周辺でも活動しているので、そういった報告をこれからは聞いていきたいと思います。ということでここから第 2 部ということですね、報告者の方は是非前の方へお越しください。では報告者の方が席に着かれる間、どんな感じの話なのかなっていうのをざくっとお話します。今もオンラインでの署名活動など、政治に直接働きかけるという事も、手段としてはあるよということでしたが、まずはですね、緑の党という、昨日の参議院選でも各地で名を馳せたのは三宅洋平さんですね。選挙フェスという活動でとにかく市民が参加する活動をやっていますね、ちょっと既成の政党とは違う、市民が直接関われる政治って言うところの印象が強く、今日は幸い、予定を開けて頂いて、緑の党東海代表である、尾形慶子さんと、運営委員の小森忠良さんに来ていただいたので、ちょっと話を伺ってみたいと思います。で、次にですね、自分たちは不安なんだという意思表示を分かりやすく伝える活動、デモやストリートミーティング、そういうことを主催してみえる小島鐵也さん、そしてその次からはですね、地域では既に独自の活動をしているんだということですね、まずは垂井から泉京・垂井事務局長である榎本淳さん、刈谷のそらともという市民グループの代表をされています城内志津さん、それで我々愛知・岐阜実行委員会の仲間であり、地元ということでそらともさんの活動していらっしゃる伊藤幸慶さん、瀬戸の方にもありまして、エム・トゥ・エム代表の服部悦子さん、そして我々この地区周辺のミーティングを企画して頑張っている名古屋勉強会チームの、ここは報告者代表として報告して下さいます木村瞳さんと、いう布陣で次々に、各地の独自の取り組みをお聞きしていきたいと思います。

尾形：こんばんは。緑の党共同代表をしております尾形慶子です。緑の党はですね、参院選で初めて候補者を出してデビュー戦を終えたばかりの政党で、まだ国会議員が一人も

おりません。しかしですね、市民の党としてですね、党を作りました。市民の党と憲法でも、本当に市民の党のつもりなんです。つまり、市民活動や地方議会の議員が集まって政党を作りました。今第1部のお話の中で、国会議員というお話が何度も何度も出ました。結局、国会議員が一番重要なわけです。交渉内容がわからない、交渉内容を出させる、政府から、官僚から、或いは交渉官から出させるということが必要。これも国会議員がしなければいけないし、そしてその妥結をしてしまった後にですね、批准をするということがあるわけです。国会で批准をしなければ、条約というのは効力を発しません。ですので国会で反対をすればいいわけです。批准をしなければいいんです。ところがさっきもお話があったように、あれよあれよとですね、一週間以内の間にばたばたと批准してしまうということになると、皆ボーっとしてる間に批准しちゃうわけです。例えば、今ですね、日本版安全保障会議の設置法案が衆議院で通ったとか、明日から特定秘密法案が審議されるとか、このようにばたばたとあるわけですが、何それ？って言っている間に、可決されて、施行されるっていうことになっているんですね。それは自民党プラス公明党、与党が大多数を占めているからなんです。そこに、若干一人、山本太郎という人が参議院に受かりまして、秘密保護法案に関しては全国でキャンペーンをやりました。その間に、変なことになってますが、やはりそういう風にですね、市民の声を挙げる国会議員を出さないといけないわけです。そのために緑の党は頑張ってますね、市民の声を出していこうと。つまり署名たくさんしなくてははいけません。国会議員に FAX をたくさん出す。これとても重要な役割です。しかしですね、直接的なですね、先生よろしくお願ひしますよっていう、それよりも、私たちの代表が国会に行くって言う事の方がいいに決まっているわけじゃないですか。そういう国会議員を選ぶということをしてほしい。ということで緑の党は、脱原発と、憲法改悪に反対。そして TPP に反対するということで参議院選挙に挑んだわけです。なんで TPP に反対するのか。先ほどもお話しありましたが、これは新自由主義に基づいている。つまり規制を緩和する。これは何かというと、強い国、強い企業がますます強くなる。搾取する自由がますます自由になる。こういうことが新自由主義なわけです。自由というと、新しい自由主義と聞こえはいいかもしれませんが、そういうことではなくて、搾取するのを、国の中だけじゃなくて、世界中で、強い国や強い企業が、弱い人、弱い企業から搾取できるというそういうのが新自由主義なわけです。TPP はそれを体現しようとしている非常に危険な条約で、経済が発展することを前提として、夢見て、まあ経済は発展しません。特に日本なんて絶対発展しません、人口も減っていつているわけですので。そしたらどうするか。他の国から盗んでくるか。さらにはますます格差を広げて、苦しい庶民をますます苦しめるか、ということです。そして今度は他の国から餌食にされるというわけです。そしてもちろん、他の国の庶民を餌食にする。国の中でもですね、日本は強くて、ベトナムは弱いということではなくて、国の中でも強い企業がますます強く、弱い人はますます弱くっていうことですので、緑の党はそれに反対して、反対する国会議員を出していきたいと、思っているわけです。

小森：皆さんこんばんは。小森忠良と申します。緑の党東海の運営を行っています。私も尾形さんと一緒に緑の党の運動に参加しまして、現在色々な運動に参加していますが、TPP に関しては現在尾形さんの方から説明があったように、少し思いをお話しさせていただきます。緑の党は脱成長を謳ってまして、日本の財政問題は、国家財政一千兆円の債務を抱えて、それを将来の私たちの世代に押し付けようとしています。それをつくったのは過去の政権政党がいない経済成長のために行ってきた無駄な公共事業、そういったものや、それから福祉についても、本当に必要な福祉であったのか。医療メーカーだけが利益を得るためだけのばらまきの福祉。そういったものをどんどんやってきた結果として残念なが

ら一千兆円の謝金が出来ました。或いは、いらぬダムや高速道路、新幹線やらネトイものがますます今作られようとして、その支払いについて真面目に考える政党は一つもありません。緑の党は脱成長を掲げていますので、まずそういったものを止めていくことを観点として議論を開始したところでは、TPP は成長を他国からの搾取を前提とした考え方ですので、緑の党は、地球上の経済資源については既に制約されていると考えていますので、それをなるべく将来世代へ、既に言いましたけども、日本は大きな資源を無駄に使って借金だけを作ってしまったが、世界でもそういった動きがありますのでそういった観点でグローバリズムに反対していき、環境税に対しても今後取り組んでいきますし、TPP に関していえば、ますますさらにですね、自由貿易を推進する形で環境に負荷をかける形で、日本は世界一美食の国と言われてはいますが、いろんな国からたくさんの油をばらまいて CO2 を出して、タンカーで運んで来て、私たちはそういう生活をしているわけですから、そういったことが本当に続くのかどうかということで、TPP はさらにそういう動きを推進していくことになっていきますので、そういったものは持続できないという形で今後とも運動をしていきたいと思っております。ありがとうございました。

小島：ストップ TPP デモ主催者の小島と申します。若干注釈をさせて頂くと、TPP デモというのは昨年の年末くらいから月イチくらいのペースで行われていまして、私はその中のいくつかのデモに中心的な役割を担わせて頂いておるため、主催者という風にさせて頂いてはいますが、いろんな人がいらっしゃるということで補足させて頂きます。お手元の資料の後ろから 3 ページ目、様々な街頭活動という事で写真をいくつか掲載させて頂きました。TPP の街頭活動に関しましては主に 3 つ。デモ行進、街頭宣言、そしてストリートミーティング。この 3 つについて話していきたいと思っております。他にも色々な手段はあるんですけども、TPP の活動という事でこの 3 つを紹介させて頂きます。デモ行進という表現活動ですが、デモ行進は街中でみなさんよくご存知かと思っておりますけども、非常に大きな音を出したり、目立つ格好をしたりですね、するわけですけども、これはですね例えばこういうフォーラムに集まって、お話を聞きに来られたわけですけども、こういったフォーラムはですね、非常に重要な活動ではあるんですけども、関心のある人しか集まらないという面があります。しかしデモというのは本当に強制的に街中を歩く誰もかれもに、無理やり関心を抱かせるというですね、強引な手段でですね、やってしまうということなんです。そうすると、これまで全然意識してこなかった人たちも、なんか TPP ってもしかして問題があるんじゃないの？って思うわけですね。今メスメディアで JA のデモとかがよく取り上げられるんですが、我々見た目はまったくそういう感じではないんですよ。なんでこんな人たちが反対しているんだろうって疑問に思うわけですね。我々は特に栄や街中で、ウィンドウショッピングなどされている方に向けてやるんですが、なぜそういう反対をしている人たちがいるんだろうと疑問に思ってくれる。それでそういうデモを見た人たちが TPP に反対している人たちがいたよ、喫茶店なんかで話してくれることで話題が生まれてくるということを狙ってやっています。当然メスメディアにも取り上げられて新聞に小さく載ったりもするんですが、そういうことによって反対する人がいる、そして中には街中歩いている人の中にも、反対をしているんだけど、自分とおんなじ考えの人が本当に要るんだろうか、不安に思っている人もいると思うんですね。そういう人たちは、どんどんデモに途中参加でもいいですし、終わってから話しかけてくれてもいいですし、そういう風ですね仲間を増やしていけるという側面もあるんですね。もちろんデモに参加して頂いた方は、終わった後に交流したりして、今度こんなことやりましょうあんなことやりましょうなんて話はするんですけど、そういう側面があるという事。ですのでデモってやっても無駄じゃないかななんてことも言われるんですけども、直接政治に働きかけるということ

にはなりにくいんですが、そういう仲間を増やしていくという側面があります。あつちやらネト頭宣言。これも同じことなんですけども、街頭へ出て、いろんな人に話を伺う。なかなか立ち止まって話を聞いてくれるという人はいらっしやらないので、こういう時は分かりやすいチラシを作ってですね、それを手渡しして家に帰ってからよんでもらうというようなことをやっています。チラシも文章だけよりも、漫画とかイラストを入れて、見てもらえるようにして、後この写真は着ぐるみ着てますけども、こうやって注目されるような活動もすることが重要なと私は考えています。それからストリートミーティングなんですけども、TPP に関しては非常に問題の性質がわかりにくいということもありますので、反対と言っているのに何に反対なのかわからないんですね。なので、これは金山の広場でやっているんですが、道行く人に声をかけたり、或いは何をやっているんだろうということと話しかけられたり、そういった方々に足してですね、TPP っていうのが、こういう問題なんですよと、ちょっと時間をかけて説明するっていう活動をですね、こういった活動を主にやっております。

榎本：皆さんこんばんは。各地からの報告で一番最初、垂井から報告をさせていただきます NPO 法人泉京・垂井の事務局長をしています榎本と申します。垂井町は岐阜県の西のはずれにある小さな町なんですけども、我々地域づくりの活動をそこでやっております、活動しているとですね、色々と町の中の問題が見えてくるわけですね。それで小さい町なんですけども、色々な問題がありまして、その問題についてあれはこうやってやったらいいんじゃないかとか、あんな人の知恵を借りたらいいんじゃないかとか、色々試行錯誤しながらやっているうちにですね、どんどんその事業が拡大して、節操なく広がっていきまして、色んな事業に関わって活動しています。今日は資料 3 種類お手元に配らせて頂いております。1つは泉京・垂井の会報。そしてオレンジ色のイベントのチラシと、もう1つ、エビとカミというチラシ。3種類配ってもらってますが、こういう風な形で環境のこと、農業のこと、林業もありますしそういう産業のこと、在住の外国人の支援というか、一緒に活動したり、イベントやったり、色んな形で垂井町、もしくは周辺部ですね、揖斐川なんかも対象になりますけども、そういう流域単位での地域づくりなど幅広く、地域の課題解決に向けて活動しています。TPP については、2012 年の冬頃から、活動と言いますか勉強会を行ったのを皮切りに、回数はそんなにたくさんはできていないんですけども、色んな要望があったら、本当に小さい回でも、第 1 部の方で話をしたうちの副代表の神田がですね、色んなところに出向いて行って、TPP の話をさせて頂いたり、意見交換をしたりという機会を度々作ってきました。お手元に配りました、にぎわい六斎市というイベントの中でもそういう風なちょっとした勉強会なんかも開催しまして、さっき皆さんからお話があったんですけども、なかなか興味を持って頂けない、その地域づくりのことでなんか難しそうだから僕には関係ないかなとかですね、よくわかんないからまあいっかとかですね、そういう人たちに少しでも関心を持ってもらって、いやこれは自分のことなんだよと。垂井町にも関係してくるんだよと、知ってもらえるようなそういう働きかけをしたいなと思ってこういうにぎわい六斎市みたいな、誰でも気軽に参加できて、そして参加したらなんかちょこっとそこでいつもと違う話を聞いて帰ったなど、地元こんな面白い活動をしているところがあるとか、もっと足元のことで言うと、垂井にはこういう例えば農産物買って、野菜が採れて、地域の中である程度自給ができるとかですね、それを加工品にして売っているお店があるとか、アーティストもいますし、色んなサービス業で活躍されている方もいるのでそういう風な、地域づくりってもう垂井町の中である程度まかなえて、自分たちの地域ってこんなにも豊かじゃないかと、言う風なことをこれを通して知って頂ければ、そんな押し付けるつもりはないんですけども、そういう地域なんですよと。なのでこれか

らも垂井をこうやってみんなで守っていきましょうね、育てていきましょうね、もうちょっとネット風なイベントになると良いなと。それでこういうことを、実は裏テーマというか、こういうことをあんまり言って、来て下さいよということは言ってないんですけども、こういう町になったらいいなという思いで活動しています。それでもうちょっとその幅を広げると、このエビとカミといった講座になりまして、地域の中ではそんな風な地域資源がたくさんあるんだけど、今はそういう生活をしていないわけで、海外とはどんなつながりがあるんだろうということも考えながら、皆さんとじゃあこれからの自分たちの地域ってどういう風になるかなということをお話できる機会っていうのをつくっていいってしているようなことです。それでこの後の話で出てくると思うんですけども、横置きになっている図式で出ている垂井 TPP 勉強会と入れて頂いているんですが、この周りに、小さな丸がたくさんあってですね、地域の色々な団体の皆さんと繋がりながら、この TPP の問題もそうですし、それ以外の地域づくりの活動もネットワークしながら、一緒に問題を解決していけるような、そういう風な地域づくりができたという風に思っています。

城内：城内志津と申します。刈谷から参りました。そらともという名前を付けて市民活動をしてきたんですけども、3.11 の震災原発事故をきっかけに、主に原発事故の本当のことを知っていくたびに、こんな社会じゃいけないな、ゆがんだ部分気付いて、自分達の暮らしに密接に結びついて、自分の暮らしを見直したりとか、そういう問題を議論したりして話し合っていける社会になったらいいなと思って、原発関係の講演や、被爆の関係を扱ったドキュメンタリー映画などを開催して来ました。刈谷市という所は、トヨタの主要関連の会社が 7 社あるところで、デンソーとか、アイシンとか、皆さんもご存じかとは思いますが、本当に大きな多国籍企業がですね 7 社あって、刈谷市役所はトヨタ関連の 7 社目と言われていて、市長などはデンソーの推薦がないとなれないと言われていたような地域ですので、最初は政治的な問題をぶつけていくのもいいかなと思ったんですけど、なかなかシャットダウンされることも多くなってきましたので、もうちょっと行政とも受け入れてもらえやすいような、食の安全であったりとかそういう形で今後何か展開していけたらいいかなと思っておりますけども、でもやっぱりみんなが話しにくいテーマだとか、是非そういう話し合いもできるような勉強会とか、映画会とか、講演会とか、ひるまずにぶつけていけたらいいなと思っております。見た目はやはり反対するんですけども、チケット販売に協力してくれたのは公務員の方もいますし、皆さん思いっきり話したいけど話せないということもあると思うので、なんだろう、うーん、ここにも書いて下さってますけども、議論できる社会というのを、もっと広げていけるような、手法を色々変えてやっていけたらいいなと思っている状況です。そういった中で、名古屋 NGO センターの理事である伊藤さんと出会って、活動の幅を広げていきたいなと思っているところです。

伊藤：私も最近そらともさんと、発足時からではないんですけども、途中から関わらせて頂いて活動しております。元々ですね、なぜそらともさん、刈谷ってところでですね、先ほど泉京・垂井の榎本さんからもお話しありましたが、私実は垂井で勉強会を受けて、色々な地域で行ってはどうかという話を受けて、それならば、地元であまり活動していませんでしたが、地元を変えていこうと、TPP も扱っていただけらなと思ひまして、そらともさんに働きかけて行いましたけども、一度勉強会は神田さんをお招きして行ったんですけども、まあなかなかやっぱり、今お話しあったように刈谷というのは企業城下町で、企業の許される範囲の中で議論とか活動は全然問題ないんです。それ以上というのはなかなかできないということはわかりましたので、今年は 7 月に少しテーマを変えて 2 つの上映会、1 つは幸せの経済学という映画、もう 1 つは原発関係の六ヶ所村～未来の伝言～ですとか、あとは神田さん滝さんをお招きしてワークショップとかやりまして、また先月

はトランジションタウンという映画を見まして、企業城下町だけれども企業に頼らなネットか、やっぱり違う地域というのをここでつくってあげれば、西三河の事例というものが、たぶんこの日本社会というものを支える、一つのきっかけとなるのではないかと思います。僭越ですけども、小さい力ですけどもいろいろとやっていけたらなと思っております。よろしくお祈りします。

服部：私は瀬戸からやってまいりましたエム・トゥ・エムという NPO 法人を運営しております代表の服部悦子と申します。こんばんは。ここに地域資源と人材を活かすと固く書かれてますけども、ちゃんと考えてやってきたわけではなく、私たちは人の役割をやるということ、その役割を担うともう少しくまうかと思っ立ち上げました。それでそのつながっている人たちと議論をしたり、その中でもっとちゃんと考える人を増やしたいなと、そうしないと世の中ちっともよくなれないなということ立ち上げました。それでつなぐ役割ですので、つなぐ人がいないといけないので商店街の空き地に 70 坪の空き地がありまして、そこに建物を建てました。一円の税金ももらっていません。私が出したわけではなく、みんなからお金をもらおうという発想で、基金を集めました。それをもとに述べ 850 人くらいのプロボノ含めたボランティアの方たちの力で建物を建てて運営を始めました。もう設営してから 10 年、この広場という建物がオープンしてから丸 8 年経ちます。そこで何をしてきたのかと言いますと、とりあえず柱を 4 つ。私は経営を学んでいませんので、細くても 4 つの収入源をつくれればいかなと思っ立ち上げました。キッチンという地元野菜を主に使ったランチですね。一番高齢化率が高い場所ですので、原価計算したわけではなく、400 円前後でランチを提供するという、とりあえずみんなが食べに来てくれるから、せめてお昼ご飯と一緒に食べようよということで行いました。それから野菜市ですね。地元の野菜をつくっている人たち、休耕地を使って作っている人たちに、なるべく続けてよということ、続けるには買わなくてはいけなく、買い支えようという事で、買い支える人を増やそうという事で野菜市を始めました。あと高齢化率がとても高い場所ですので、便利屋ということも始めました。それは商店街の方からも要望があつて、色んな人をつないできましたので、こんなことができるよつていう人と、困つたなつていう人をつなぐ事業が便利屋事業。それでもう一つ、窯の広場という役 100 平米の、高さが 5m40cm くらいある平屋なんですけども、どこにでもあつたような空間で創りましたが、私たちが占拠する場所というよりも、自由に使ってもらえる場所にしたかつたんです。つまり公共の建物というのは制約があつたよ。自由じゃないという事で、自由に使える場所をつくらうということ、そしてそれは誰もがという意味でしたので、時々貸したりします。上映会とか、コンサートとか、色々やっています。そんなよなことつていう 4 つの収入源で今までしてきました。それで色んな課題が見つかつてくるので、見つかつたことをやつてしまふんです。私たちの力のできるかどうかは考えずに、やることから決めます。外国人の健康チェック、医療相談つていうのもやろうということ、やりました。やるには医療機関の協力があないとできないという事で、医師会に行つたり色々する中で、瀬戸の中では残念ながら見つかつていませんでしたが、愛知県の大きな総合病院と手を組むことが出来たので、そこから初めて丸 6 年つています。今は色んな病院からのドクターのボランティアでの参加も増えてきました。これは地域住民が主体になつたほうが良いという事で自治会主催という形で自治会の予算を使いながら、毎年つています。ですから地域住民、自治体とか婦人会の皆さんが外国人の腹囲を測るとか、尿チェックをするという形で、まあとりあえず顔見知り関係になればいかなということ始つています。それで今やつているのは生活プロジェクトというつながっている人たちへのおせつかいをしていこうというプロジェクトです。それともう一つ、とにかく色んな TPP だけじゃなくて、いろんな問

題があるので、何か自分たちでできる関係をつくろうということで今始めようというところから、洋服作りなんですけども、なんか日本で、高齢者の服とか、障害をもっている人たちの服って面白くない、つまんないと思って、派手な服を着たいなっていうと、海外生産という大変なことになるし、それもおかしいなと思うので。でも周りにはつながった高齢者の方がいるので、60~70代くらいの方で手に職を持っている方がいっぱいいらっしゃるんで、その人たちと縫製屋さんを始めようかという話をしている、その会場がですね、認知症になった一人暮らしになったおばあちゃんのお家があって、そこが仕立て屋さんをずっとしてきたんです。そこを使ってもいいよ、ミシンも道具もいろいろあるのでということで、毎日離れて暮らす娘さんが、お母さんのお世話にきているんですね。そこに私たちが毎日出かけて洋服を作ろうよという話を今進めています。そんなようなところで、これからどうなっていくのか分かりませんが、このほかにもマルシェを開いたりして、TPPのクイズをしながらやっています。それはつながっている病院でやっています。それも効果があるなど。クイズっていうのは、皆さん考えるので、良かったなと思っています。面白いことにお医者さん達っていうのは、あまり知らなかったのかはよくわからないけども全問不正解という方が多くて、そんな感じでやっています。以上です。

木村:皆さんこんばんは。私は名古屋 TPP 勉強会のメンバーということなんですけども、名前は木村瞳と言います、よろしくお願ひします。私は皆さんのような、自分たちが住んでいる地域というものが今はありません。ていうのは、もともと岐阜県出身で今は名古屋市内に住んでいるという環境です、と云ったところで、今から2年くらい前に TPP の問題が新聞とかに出てきました。私は以前から国際協力とかに興味があったので、ちょっとそれってまずいんじゃないかなというなんとなくしたところからちょっと疑問で、勉強して知りたいというところを口にしていたところから、仲間を見つけまして、勉強会のメンバーになりました。そこから2年くらい前からですね、定期的に神田さんとかに、今日の前半のようなお話を聞きまして、TPP っていう概要が見えてきました。そこから私なりに捉えていったときに、やっぱり外からの外交の関係であったりだとか、多国籍企業の波であったりだとか、そういった外圧的なものは、TPP でなんとか押し戻したいなという気持ちはあるんですが、なかなかそういう大きなことは私個人ではできない。そういったときにじゃあ何が一番大切なのかと言ったときに、私たちの身の周りにある地域というか、自立。食料でいうと自給自足という分かりやすいんですが、それ以外に医療だとか、市民サービスであるとかっていうところが重要だと気付いて、私たちはグローバル経済に振り回されない地域の自立や、社会展開をどう生み出せるかっていうところですね。そこでこういった地域で動いて見えるみなさんのような、頑張ってるっていう、っていうそういったところが一番強いんだということに気が付いて、地域はないけども、ネットワークをするっていうことで私たちはそこにつながってけるんじゃないかということをおもったわけです。今後の展望としまして、大きく分けると二つ役割がありまして、こういった地域で活躍・活動されている方々であったり、各分野で活動されている皆さんを、相互につなげていったりだとか、後は以前の私のように個人で興味を持っているけど、どう動いていいのかわからないという方に情報がとれるような、HPなどを立ち上げるということができるんじゃないかなと考えています。ただそれは情報を見るだけではなくて、私たちは勉強会っていうのは月イチでミーティング、どこどこで勉強会ができないかなっていう情報をシェアしたり、毎月会っていますので、そこから皆さんが質問されたことを、次のミーティング後で解答できますよというような、情報を見るだけでなく相互間のやり取りや調整、人だとか情報をシェアできる HP がつくれたらなんてことも考えています。あと一点役割としましては、先ほど少し出てきましたけども、市民と政府の意見交換会全国

委員会が、内閣とやりとりをしている。それを岐阜・愛知の取りまとめ役として、後としまのネットの市民の声を吸い上げて、全国の方に持って行くという事も担えるんじゃないかという事で活動しています。以上です。

滝：ありがとうございました。まだまだお話したいことがあると思うので、せっかく皆さんにでていただいたので、パネルディスカッションとまでいくと時間がないので、プチパネルディスカッション風で、特に興味あったことに対して一問一答形式で対話できたらと考えていますので、今質問を考えてみてください。その前に、一つだけ私からお知らせしたいのは、配布した資料の中に IWJ (Independent Web Journal) のチラシが 2 種類こうしてあるかとは思いますが、それで今こうして報告して頂いたのは各地域であるとか、活動の種類・分野など、様々な種類があるのでそれぞれ皆さんが興味のあることから食いついて頂ければいいかなというつもりで紹介したんですが、あとですね、メディアのこと。情報の民主化なんてことも書いてありますが、岩上安身さんという方がここにも書いてあるように、日本のマスコミが流そうとしないけど世界中が知っているような情報とか、事実をもっとマスメディアが伝えないことを伝えるんだと。ネットで配信されて、それを全国でネットワークして進めていっているというような情報媒体なんですけども、ここで全国各地にサポーターがいて、名古屋でも IWJ の運営に携わっている人が居て、今日も呼びかけたんですけども、残念ながらお仕事、会議が入ってしまっていて出れない。せめてチラシだけはということで、せっかくなので私から紹介させていただきます。TPP だけでもとにかく 460 本以上の動画があると。ただ会員制で有料じゃないと見れないものもあったりするので、その辺は制限があるんですけども、無料の中でも割と綿足も見ています。考えさせられるものもあります。特に面白かったのが、名古屋で IWJ の岩上安身さんと呼んで開いた講演会の時に、助成の方が午前中に講演を聞いて、午後からは地域の活動で野菜販売なんかの話が合ったように、名古屋の地域で有機野菜を販売するようなマルシェを開こうとしたんですけども、午前中の講演で体調が悪くなったという事で帰られる方がいるくらい、すごく知らないことを知らせてくれる、またお先真つ暗だという人もいるくらいの情報を聞かせて頂けます。ウソかホントかわからない、ほっておいたらどうなるのかわからないということ、メディアとして IWJ が伝えて、それを知っていると構えられると。危機管理ができると。そういう意味では IWJ はすごく使えるなと思っています。特に最近なんかは食品偽装なんて最近やたら言い出して何をいまさらなんて思いますが、TPP が締結されちゃったら、そんなエビの種類が違うだけじゃないぞと。もっと健康を害するものが表示されずに売ってたりとか、騙して売ってたりとかするのに、何をいまさらなんて思う所もあり、アメリカ諜報活動のメリケルさんの携帯電話がうんぬんかんぬんなんて話も、まさしく秘密保護法のことを言っているような気がして、メディアで取り扱うのはいいんですけどももっとストレートに言ってくれよと。そんなこともあるんですが、IWJ ならストレートに情報を聞けるんじゃないかと。それが IWJ です。皆さん興味があればサポートして頂ければと思います。

それでは順番に一問一答で、よろしくお願ひします。

20:15 質疑応答

北奥：では一つ、私でも出来そうかなって思ったのが、デモにも参加できそうかなって思ったんですが、若い女の人はいいますか？

小島：若い女の方ですか？色んな年代層の方がほんとに最近、特に 3.11 以降は、若い女性がデモに参加することも多くなってますから、勿論 TPP のデモなど、でもまあ正直テ

一マによりけりですよね。例えば労働系の、貧困系のデモだと男性が多くなるけれど、あるんですけども、TPP に関してはそうですね 6:4 くらいで 4 割くらい女性という感じですかね。若い女性もチラホラお見受けします。

北奥：ありがとうございます。是非参加してみたいです。

木村：私は個人的な感じで質問しても大丈夫ですか？TPP 勉強会としてではなくよろしいですね？緑の党さんにお聞きしたいんですけども、議員さんとあまりお話しする機会、政党というものが今まで私には選択肢としてなかったのでよくわからないんですけども、Facebook とか HP だとかという媒体で政治家が言っているという事はわかるんですが、中々直接お話しだとかってというのは、聞いてみたいなど。普段、選挙前で演説を聞くとかじゃなくて、普段の議員さんとお話しする機会というのはありますか？

尾形：緑の党はまだ国会議員がいないんですけども、地方議員はいます。東海だと多治見市議と、碧南の市議がいますね。ですから彼らに会って話をすることはできます。緑の党で、グリーンカフェというものをやろうと言っているんですね。それは講師を招く場合もあるし、そうでない場合もあるし、持続可能な社会をつくるにはどうしたらいいかなという、農業の話ですとか食品の話とか、取り留めもなく集まってしゃべるといっただけで開いています。それで結構豊田市とか三重県とか多くて、愛知県・名古屋ではあんまりやってないじゃんと言われているので、やろうと言っています。それに是非参加して下さい。その時、会場を借りてやるかもしれないし、どこかオーガニックのレストランとかでお話ししたりすることもあるので、議員というと東海には 2 人しかいないので連れてこないといけないので、緑の党の会員とか三宅洋平つながりで最近加わってくれた若い方とか、いろんな方がいますのでそういったところでの話というのはあります。またお知らせします。

木村・是非参加したいと思います。ちなみにこういったことというのは緑の党さん独特といった、カフェ・お話し会など、他の政党でもやっているんですか？

尾形：他の政党はどうなのでしょう。緑の党独特と言えど独特ですね。みんな有機農法だとかオーガニックに関心あり、地域のことに関心あり、そして放射能のことも心配していて脱原発でっていう人たちが、思っているんだけどみんなと連帯して行って、そういう人たちと変えていけるんだらうという、緑の党は緑的な考えみたいなことを言っているんですけども、私たちがやっているのはそういうことです。他の政党もあるのかはちょっとわからないですすみません。

木村：ありがとうございます。

服部：質問という事じゃなくてもいいですか？瀬戸はつないできたつもりなんだけど、それから愛知県お中でもつながっている人たちの中で、何かしらこう、情報発信できるような機会を作りたいなと思って、地球の子マルシェというマルシェを開催しています半年くらい前から。ほしの子のほしという字は地球と呼びます。そこに出品する出品者というのは、未来ある子どもたちに地球環境をちゃんと残していこうねというコンセプトに合った、商品だけを取扱っているというものです。ということで実行委員会を立ち上げて、人参クラブさんとか、色んなクラブでマルシェやっている人たちのリーダーを呼んで実行委員会を作って開催しています。が、目的は情報発信なので、一番最初にやったのが TPP のクイズでした。5 問クイズで出品者からはとにかく、正解・不正解関係なく、答えて、答え合わせしてくれた人にはクジが引けて、それで何か当たるよっていう。それは出品者が商品を提供して、そしてそれはとても良くて、きつこのあとニュースで TPP という

言葉を聞いてくれる人が増えたかななんて思ってたんですが、今お願いしたのがやらねもさん、一緒に手伝ってくれませんか？実行委員会などでやってはいるんですが、問題を創り上げていく、能力・知恵がないことと、そここのところだけを専門にやって発信してくれるひとがいらないかなと思っていて、丁度お話を聞いて、議論できる社会とかって書いてあるので、一緒にやりませんか？

城内：知的なことは無理なんですけども、そらとのメンバーの中にも情報を持っているメンバーもいますので、是非その方の情報とかを集めて頂いて使って頂けたらと思います。

服部：病院が緑区にありますので比較的近いかなと思って。

城内：緑区ですか。いい病院ですもんね。

服部：ありがとうございます。

城内：皆さんに聞きたいことがあるんですが、服部さんから今ご質問という事で、コミュニティがとれるような空間が市内にも欲しいなと思って。あれだけ財力がある市なのに、フェアトレードのお店なんかも一軒もないんですよ。不思議なんですけども。そういうコミュニティが集える場所が欲しいなと思って。色んな情報発信場所ができる場所が。ですのぞの場の広場ができるまでの経緯だとか、アイデアだとか、手腕を教えて頂ければと思います。

服部：過去のことは全て忘れてしまったんですが、前を見るのみなので。あのですね、いつも何かをする時にはまずしようと腹をくくる人を2~3人作ること。それでやることを決めてしまうんです。例えば外国人健康チェックも、医者が誰もいないのにやるって決めました。私日本語しかダメなのにやるって決めました。医者は後から見つけようと思って。それでとにかく訪ねていくんですね。それでなんとかなって行って、なぜしたいのかっていう、やることを語るのではなく、なぜしたいのかということ語っていけば。私たちが建物を建てる時に400万円くらい寄付で集めました。10ヵ月くらいかかったかな。私も頑張って集めようとしたんですが、それよりも周りの人が集めてくれたんですが、それは何かっていうと、今から思えば、こういう建物でこんなことをしたいからお金を集めていますって言えば、たぶん興味をひかなかった。そうじゃなくて、なぜしたいのか、なぜこんな場所を必要としているのかっていうと、そこには共通するものが必ずあって。逆にそこがなかったら上手くいかなかったと思うんです。そこが一致していたというか、共感を得ることができたので、お金が集まることができ、建物建てる時も、私は大工さん一人いれば建つという浅はかな考えだったんですけども、浅はかも大事ですね。浅はかがないと前に進めない。でも、なにかしらちゃんとそういったものがあれば、困ったという事が大事です。困ったからどうすればいいか考えて結論出して、これお願いしますっていうんじゃないで、困ったっていうんです。困ったって、何困ってるの？困ったことを報告すると、まず立ち位置が一緒になる。すると困ったを解決しようという仲間が増える。知恵が出て、じゃあそれやるよとなるんですね。例えば私が、困ったからこれしてくださいっていうと、なんかそうじゃない関係になってしまうので、同じ方向を向かないので、困ったっていう。だから簡単です。浅はかなことと、困ったということと、なぜそれしたいかを、ちゃんと語ればいいんじゃないかなと。

城内：ありがとうございます。

榎本：僕もいろんな方にお聞きしたいんですけども、誰でも気軽に参加できる場づくりっていうものをしていきますので、ストップ TPP デモの絡みで、かなりの回数を重ねてきて

るとのことですが、そのやってきた間ですね、アピールの仕方、参加者の層がかなり変わって
関わるといって、そのやってきた間ですね、アピールの仕方、参加者の層がかなり変わって
関わるといって、そのやってきた間ですね、アピールの仕方、参加者の層がかなり変わって

小島：デモ自体はですね、年末くらいから初めて一旦 7 月頃で止めて、反対はわかっているが何が反対なのということで問題になってきて、ストリートミーティングなどでより具体的な話をするようになってきました。そしてその間はメンバーも入れ替わったりもして、色んな人が集まって、自分はこう言う事が出来るけどどう？とか、いろんなアイデアが集まってくるんですね。その内にじゃあそれ今度やってみようかなんていう話にもなっていて、色んなことが字柘植したり、しなかったりするわけなんですけども、外に向かってアピールするという事も目的の一つではあるんですけども、そうやって仲間を集めるということも、こういう活動していると目立つので色んな人が寄ってくるんですね。ですのでいろんな知恵を合わせて色んなアピールの場にしていければいいかなと考えています。

小島：木村さに、色んな活動をシェアできたらいいなんてことを先ほど伺いましたけども、何か具体的にそういう情報を共有できるものを、例えばインターネット、ウェブサイトなど、もしくはアナログ的なものの活用など、そういった具体的なことはお考えですか？

木村：今のところ HP 解説はしていないんですけども、既につながっている人、そしてまだつながっていない人とも、という意味では Facebook などではなくて、HP とかウェブの解説を考えています。

小島：それは解説という事は人手も手間もかかりますし、情報もつねに更新していかなければならないかとは思いますが、それは今のうちに色んな人が集まっていると思ってしまうので。

木村：とても素敵な提案ありがとうございます。私たちは地域を持たないコミュニティを持っていないけども関わっていかなくてはと思っているので、ウェブの管理だとかは遠方からでもできるんですよ。集まらなくてもできますので、本当に個で思いのある方は、まず名古屋の勉強会に、ML がありますので、そちらに登録して頂いて、入って来て頂ければと考えています。そこからウェブを今は考えています。

小森：今回こういう形で政党と協力していくということは大変なことだと思うんですけど、今後の展開も含めてそういうお考えがおありなのか。あるいはどういう風にやっていけば機能していくのか。我々緑の党は政治家というよりも市民活動団体というイン式でいるのですが、そういう所についてお聞かせください。

滝：名古屋 NGO センターは多種多様な団体が存在します。その中で今回名古屋 NGO センター内にある TPP 実行委員会の場で、政党を呼ぶという事で今回実はおっかなびっくりしていて、呼ぶなら全部の党を呼んでじゃないと不公平だろうという気持ちもあったのですが、今回の趣旨としては市民がいかに政治的なことにアプローチしていくのかという時に、色んなやり方がありますよというつもりで皆さんをお呼びしたと。その中の政党へのアクションというのは、一番市民に開かれているだろうという風に勝手に私が思って、色んなアクションの一つとして、お呼びすれば、一つの選択肢として。色んな方法がある中の一つだよということで、紹介しました。この後は理事長にフォローして頂きたいと思えます。

西井：政党を呼ぶという事に関しては、まだ NGO センターの中でも賛否両論あるんじゃないかなというのは、直接聞いたわけではないんですけども、様々な NGO ネットワークでするのであるだろうなと予測しつつ。ですが緑の党という政党も新しいですし、割と市民活動から広がっていった、そして政党へ変わっていきつつあるという段階ですので、割と我々

市民と近い感覚でお話し聞かせて頂けるのかなと。そういった意味では、~~ベグ~~ ~~ちや~~ ~~せら~~ ~~ネット~~ 国会議員をだして、政党助成金をもらっている政党などとは、またちょっと違った政党なのかなと。こういってはおかしいかもしれませんが、市民が育てていくと言いますか、一緒にやれる可能性を秘めたところなのかなと思いましたので、私もじゃあやってみようかと賛成をしたと。ですから今後他の政党とどうだろうかという時はその時々の手相手によりけりではないかなと。全部の政党に声をかけてこういう場にきてもらうのが一番いいでしょうけど、実現の可能性なども考えると、先のことでありわからないという所ですね。

尾形：ありがとうございます。まだまだできたばかりの政党で、これからなんとか体裁を整えていこうという政党です。ありがとうございます。私質問したいのはですね、参加者の皆さんなんですけども、当然のように TPP は反対と言う論調で私たち話していますが、TPP 反対という方や、あるいは、まだよくわからないんだけどとか、あるいは、私は農業をやっているから打撃を受けそうなので反対をしているけど実際よくわからないだとか、まだモヤモヤが残っているなど、手を挙げて頂きたいと思えます。モヤっとした方、いらっしゃいますか？3名いらっしゃいますね。ちょっとどういう点でモヤっとされたのかお聞きしてもよろしいですか？

参加者 1 人目：ありがとうございます。TPP に反対する人っていうのはちゃんとした意見があるんですけども、TPP を賛成する意見というのがよくわからないんですよ。誰が得をするのか、経済的なメリットだとか、そのメリットがわからないのに周りの空気が進んでいる。なんでだろうと思ひまして、この TPP に賛成する理由がわからないのに進んでいるということがおかしいと感じるんですけども、それについてはどうなんでしょうか？というのが質問です。

参加者 2 人目：同じ質問です。

参加者 3 人目：私自身がこういう勉強会初めてですが、メリットが分からないんですね。当然良かれと思ってやっていると思うんですが、それよりもマイナスの部分の方が大きいと思います。実際そこがもっと理解すれば、もっとよく TPP のことが理解できるのかなと感じています。

神田：反射鏡のように返ってきました。今日お配りした資料 4 枚目の裏側に、TPP の影響試算というコーナーがあります。この中に日本の政府です内閣府の HP に書かれているもので、一応現時点で日本政府の公式な見解。TPP でこれだけのメリットがありますと明記されていますが、実質 GDP0.66%分底上げ 3.2 兆円。これは 10 年経過した数値です。ですから TPP が締結されてすぐに数値が上がるわけではなくて、10 年後にこういうような形で経済規模が大きくなるという試算ができますよと謳われています。これをもう少し詳しく解説というか、私なりに読み解くと、これによって経済を底上げするのは誰なのかというと海外に投資できるという風な人たち。あるいは海外に生産拠点を移すことのできる製造業の人たち。或いは海外の投資を国内で受け入れてそれによって利益を得るといった人達。大体この三つの人たちにとったら、経済的な利益という意味では、大きなことが期待できるんじゃないかという事で政府は考えているのではないかと思います。その結果日本の経済成長がですね、私は先ほど経済成長を否定するような発言をしましたがけれども、未だに日本の社会においては、大多数の人たちは経済成長期待されているという風なことです。そして経済成長していくと、その余得というものが必ず自分の方にやってくるというような期待値というのがあって、それで今言った三つの方たちに当てはまらない人の中なんかでも、TPP ってなんか必要なんじゃない？なんていう形での淡い期待なんてあるんじゃないかと私自身は分析しています。但し、80 年代以降 30 年間くらいをスパンとして考えて

いっても、経済成長しても分配率、その経済をどのように分配しているかという点では、分配の仕組みというものが、どんどんどんどん痩せ細ってきているというような中では、尾形さんが先ほど新自由主義の経済と言われていました。新自由主義の経済というのは政府の機能をなるべく小さくして、これ政府の大きな役割ってというのは、経済が大きくなっていくとそれを分配調整するという事が政府の役割なんですけども、TPP に代表されるような新自由主義の経済の下であれば、これを小さくしようとしていますから、小さくしていくと成長していてもこれが分配されない。だから私たちのところにそれがくるという期待地というのは、淡いもの儂いものになってしまうという可能性が高いだろうと思うんですけども、なお、大きくなって行ったら私たちに戻ってくるだろうとなんていう風な期待があって、わからないんですけどもまあ良いんじゃない？くらいの感覚の方が多いんじゃないか、という風なところでもあります。もう少しだけ一点だけ言わせて頂きますと、こういう公開の場で話させて頂くという事を私やりますけども、一方で非公開の場で講演頼まれていくなんで機会も増えていっております。誰に頼まれるかというとは実は経済界から頼まれるんです。地域の商工会議所とか、青年会議所とかっていう場所から勉強したいから来てくれとお呼びがかかるんです。そういうところで話をすると、その人たちは経済の現場の、最前線にいらっしゃるので、こういう話をしてもずっと理解されて、あっ自分そこには回ってこんなど。いう風な反応が多くって、全体の中の話が終わった後の相談会では、延々と自分の業態はこれだけあればこうだろうああだろうなんて具体的な話になっていく。ですから岐阜県ですとか福井県なんかでも私は話をさせていただきましたけども、そういうところ中小の事業者の目から見たら、TPP というものは、およそ自分たちのところには来ない。という判断をされるという経験をするということもいくつかしております。

滝：非公開の場で神田さん話されるということも多いという事で、チラシには岐阜からの報告会とありますが、今回報告者は実は及びできなかったんですが、今の神田さんのお話から岐阜での活動報告もありましたので、それに代わる形で報告ということにさせていただきますが、もう少し、加えて頂けますか？お願いします。

神田：簡単に一つだけ申しておきますと、市民活動、あるいは生協の方々と呼ばれていって公開の場で話をさせて頂くというようなこと回数重ねております。各地岐阜県内で何か所もあったり、今言ったように経済団体から呼ばれて話をするなんていったようなこともあります。今ちょっと小康状態で、岐阜・愛知っていうのは年内、今後予定がない。TPP の話はホントにこの地域だけの話ではないですね岐阜県内相当のところでは学習会はあるんです。そこで開かれた所でやるとこうやってつながっていくことが可能で、中々面白いなと思うのがとざれされた所でよばれていくと、商工会議所が主催して行う講演会だからどうせ TPP 礼賛する人が来るんだろう、来たんだろうなんて思って来たら、TPP のことを批判的に言う人がきたぞなんて。終わっての感想はそういうのが多い。商工会議所もやりますね。そんな風な感想もあります。ですから緑の党を支持される人だけがこのように危機感を持っているというわけではなくて、そういうとこの層の方たちというのは大体自民党の支持層なんですよね。そういう方たちの中にも、同業者だけではないです。中小の事業者の方たちの不安っていうのもすごく大きくて。何よりもやっぱり情報がないから、ちょっと知らん講師やけど呼んでみようかな、なんて風になっているのかなと。そんなところです。

滝：ありがとうございました。知らずのうちに参加者も巻き込んで参加型になってしまいましたが、最後西井さんの方から、一言宜しくお願い致します。

西井：第1部の最後の方で、北奥さんから、私たちこれから TPP の交渉が妥結して TPP

の枠組みの中に入ってしまったらどうなってしまうんでしょうね、というお話でしたが、こういう取り組みはどうなんだという質問がありまして、神田さんの方から TPP 参加したとしても、それに左右されないとはいえませんか、社会づくりを考えていくんじゃないの、というお話がありましたが、神田さんが作成された資料の中にも穏やかな社会に向けてとありますが、今日皆さんのお話をお聞きしている中で、地域の中にちゃんと足をつけて暮らしとしっかり向き合いながらですね、その地域の中にある課題を見つけて、出会う、それを解決するための方法を考えている人たちが地域のことがわかって、こういうことをやっている活動をこれからコツコツやっていくことが、生き延びるための私たちのこれからの生存戦略としては、たぶん残念ながら TPP は今の国会の様子では通っていくのではないかなと予想されると悲観的になっちゃいけないんですけども、国会での審議がありますので万一の場合を考えていきますと、私たちの生存戦略みたいなことを経済成長だとか、そういうことを前提とせずに、地域でお金が廻るだとか地産地消とか、海外へ出て行って大きなことをやろうとかそういったことではなくて、本当に身の周りのことから暮らしを創り上げていくという事にもう一度戻ってくるような。社会を縮小させていく方向へこれから本気で向かわなくちゃいけないのかなと思って聞いていました。私自身も生活の場で実践ができていないので、どういったことができるのかなと考えながらいきたいです。以上です。

滝：はいありがとうございます。また最後一点だけお聞きしたいことがある方ありましたらどうぞ。

参加者：TPP もし反対して日本が参加しない場合、日本はどういう影響を受けるのか教えて頂けないでしょうか。

神田：外交交渉ですから、当然離脱ということは選択肢としてあると思います。特に現実今、マレーシアで反対運動が非常に高まっているという話をしました。マレーシアがひょっとすると最終的に離脱するんじゃないかという観測が出始めているんです。ですから日本も離脱という選択肢はあり得る。しかしそうした時に4月17日にアメリカと交わした二国間の合意という事について、アメリカ側から猛烈なプレッシャーがかかってくるということがあります。4月17日に TPP と並行して二国間協議を開く。その中にアメリカは日本の自動車関税を下げないよというところからズラズラと9項目、日本に対して要求項目を発表しています。ですからこういうような影響の方が大きいんじゃないか。TPP そのものを離脱するという事は簡単だけれども、日米協議の中で相当アメリカとの関係が悪化するんだということを覚悟しないとイケないと思っております。

滝：ありがとうございます。まだ明快ではない方いらっしゃるかもしれませんが、そういう方は是非我々と一緒に活動して頂ければと思います。アンケートありますので、こちらに質問などわからないことありましたら記入して頂いて、それを参考にまた作り上げて行けたらと考えています。それではこれで終わりたいと思います。皆様どうもありがとうございました。